

日商簿記 3 級 模擬試験 2024② 制限時間 60 分**第1問 (45点)**

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の () 内に記号で解答すること。なお、消費税は指示された問題のみ考慮すること。

1. 沖縄商店に対して商品¥35,000を注文し、手付金として¥20,000の小切手を振り出して渡した。
ア. 現金 イ. 仕入 ウ. 当座預金 エ. 支払手形
オ. 売上 カ. 前払金 キ. 前受金 ク. 買掛金
2. 領収証の発行や約束手形の振出しに用いる収入印紙¥7,000と郵便切手¥2,000をとともに東京郵便局で購入し、代金は現金で支払った。なお、購入した収入印紙と郵便切手はすぐに使用した。
ア. 通信費 イ. 広告宣伝費 ウ. 消耗品費 エ. 租税公課
オ. 貯蔵品 カ. 現金 キ. 法定福利費 ク. 仮払金
3. X商店とY商店の取引の仲介を行い、手数料¥50,000をX商店振出の小切手で受け取った。なお、当社は商品販売業を営んでおり、仲介業を営んでいない。
ア. 受取手形 イ. 仕入 ウ. 買掛金 エ. 売掛金
オ. 現金 カ. 受取利息 キ. 受取手数料 ク. 当座預金
4. 現金の帳簿残高が実際有高より¥20,000少なかったので現金過不足として処理していたが、決算日において、受取手数料¥30,000と旅費交通費¥14,000の記入漏れが判明した。残額は原因が不明であったので、雑益または雑損として処理する。
ア. 現金過不足 イ. 現金 ウ. 雑益 エ. 旅費交通費
オ. 仮払金 カ. 支払利息 キ. 受取手数料 ク. 雑損
5. 販売目的の中古自動車を¥1,500,000で購入し、代金は後日支払うこととした。なお、当社は自動車販売業を営んでいる。
ア. 車両運搬具 イ. 備品 ウ. 未払金 エ. 未収入金
オ. 売上 カ. 買掛金 キ. 売掛金 ク. 仕入
6. 前月末に当社で従業員負担の昼食代¥1,000を立て替えていたが、本日、従業員から現金¥1,000の支払いを受けた。
ア. 売上 イ. 給料 ウ. 仮受金 エ. 前払金 オ. 立替金 カ. 仮払金 キ. 現金 ク. 福利厚生費
7. 商品(本体価格¥500,000)を¥850,000で売り上げ、代金は10%の消費税を含めて掛けとした。なお、消費税については、税抜方式で記帳する。
ア. 売上 イ. 仮受消費税 ウ. 仮払消費税 エ. 未収消費税
オ. 未払消費税 カ. 仕入 キ. 買掛金 ク. 売掛金
8. 銀行より¥2,000,000を借り入れ、同額の約束手形を振り出し、利息¥80,000を差し引かれた残額が普通預金口座に振り込まれた。
ア. 借入金 イ. 貸付金 ウ. 当座預金 エ. 普通預金
オ. 支払利息 カ. 受取利息 キ. 手形借入金 ク. 手形貸付金

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
2	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
3	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
4	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
5	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
6	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
7	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
8	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	

9. 株式会社関西物産の設立にあたり、1株当たり¥30,000で株式を100株発行し、出資者より当座預金口座に振り込まれた。発行価額の全額を資本金とする。
- ア. 普通預金 イ. 当座預金 ウ. 繰越利益剰余金 エ. 資本金
10. 株主総会で繰越利益剰余金¥5,000,000の一部を次のとおり処分することが承認された。
- 株主配当金 ¥300,000
利益準備金の積立て ¥30,000
- ア. 資本金 イ. 繰越利益剰余金 ウ. 利益準備金 エ. 支払手数料
オ. 未払法人税等 カ. 未払配当金 キ. 受取利息 ク. 雑益
11. 中間申告を行い、法人税¥1,200,000、住民税¥300,000および事業税¥450,000を現金で納付した。
- ア. 現金 イ. 租税公課 ウ. 未払消費税 エ. 未払法人税等
オ. 法人税等 カ. 仮払法人税等 キ. 法定福利費 ク. 前払金
12. 前月に売却した土地の代金¥1,794,000が本日当座預金口座に振り込まれた。
- ア. 土地 イ. 未収入金 ウ. 普通預金 エ. 未払金
オ. 土地売却益 カ. 当座預金 キ. 土地売却損 ク. 借入金
13. 当期の決算を行った結果、¥420,000の当期純利益を計上した。
- ア. 損益 イ. 繰越利益剰余金 ウ. 売上 エ. 利益準備金
14. 今月分の従業員に対する給料¥3,000,000を、所得税の源泉徴収分¥222,000および健康保険・厚生年金・雇用保険の社会保険料合計¥279,000を控除し、各従業員の指定する銀行口座へ当社の普通預金口座から振り込んで支給した。
- ア. 普通預金 イ. 当座預金 ウ. 従業員立替金 エ. 給料
オ. 法定福利費 カ. 社会保険料預り金 キ. 未払金 ク. 所得税預り金
15. 以下の納付書にもとづき、当社の普通預金口座から振り込んだ。

領 収 証 書			
科目	法人税	本 税	570,000
		○ ○ ○ 税	
		△ △ 税	
住所	東京都港区××	□□税	
		××税	
氏名	株式会社パプロフ物産	合計額	¥570,000
		納期等の区分	X010401 X020331
		中間申告	確定申告
			出納印 X02.5.31 東西銀行

- ア. 未払消費税 イ. 仮払法人税等 ウ. 前払金 エ. 当座預金
オ. 未払法人税等 カ. 仮払消費税 キ. 法人税等 ク. 普通預金

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
9	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
10	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
11	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
12	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
13	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
14	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
15	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	

第2問 (20点)

(1) 当社では毎年10月1日に向こう1年分の保険料¥48,000を支払っていたが、今年の支払額は10%アップして¥52,800となった。そこで、この保険料に関する下記の解答欄の勘定の空欄を記入しなさい。語句については、下記の語群の中から最も適当なものを選ぶこと。なお、当期はX1年4月1日からX2年3月31日までであり、前払保険料は月割計算している。

[語群]

現	金	前払保険料	未払金	保	険	料	
前	期	繰	越	未	払	保	
損	益	次	期	繰	越	未	払
保	険	料	損	益			

(2) 次の文の①から⑤にあてはまる最も適切な語句を下記の [語群] から選び、ア～シの記号で答えなさい。

1. 建物の修繕によってその機能が向上し価値が増加した場合、(①) 勘定で処理する。
2. 貸倒引当金は受取手形や売掛金に対する (②) 勘定である。
3. 3伝票制において、現金の入出金を伴わない取引は (③) 伝票に記入する。
4. 売掛金元帳は、得意先ごとの売掛金の増減を記録する (④) である。
5. 商品有高帳の払出欄の単価欄には商品の (⑤) が記入される。

[語群]

ア	仕	入	イ	売	価	ウ	振	替	エ	売	上
オ	原	価	カ	起	票	キ	主	要	簿	ク	評
ケ	建	物	コ	補	助	簿	サ	残	高	シ	修
											繕
											費

(1)

保険料

X1/4/1	() ()	X2/3/31	() ()
X1/10/1	現 金 52,800	〃	() ()
	()		()
X2/4/1	() ()		

前払保険料

X1/4/1	() ()	X1/4/1	() ()
X2/3/31	() ()	X2/3/31	() ()
	()		()
X2/4/1	() ()	X2/4/1	() ()

(2)

①		②		③	
④		⑤			

第3問 (35点)

次の(1)決算整理前残高試算表と(2)決算整理事項等によって、解答欄の()内に適切な語句または金額を記入して、貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。なお、当会計期間はX19年4月1日からX20年3月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
518,000	現金	
1,111,000	普通預金	
	当座預金	195,000
360,000	受取手形	
952,000	売掛金	
200,000	仮払法人税等	
384,000	繰越商品	
600,000	貸付金	
3,000,000	建物	
1,600,000	備品	
440,000	土地	
	支払手形	280,000
	買掛金	1,010,000
	社会保険料預り金	70,000
	仮受金	112,000
	貸倒引当金	14,000
	建物減価償却累計額	1,000,000
	備品減価償却累計額	799,999
	資本金	3,000,000
	繰越利益剰余金	1,160,001
	売上	19,060,000
	受取手数料	6,000
	受取利息	24,000
9,920,000	仕入	
5,580,000	給料	
900,000	保険料	
165,000	水道光熱費	
30,000	租税公課	
971,000	法定福利費	
26,731,000		26,731,000

(2) 決算整理事項等

- 現金の実際有高は¥506,000であった。帳簿残高との差額のうち¥15,000については水道光熱費の記入漏れであることが判明したが、残額については原因不明なので、雑損または雑益として処理する。
- 仮受金は、決算直前に得意先より受け入れた内容不明の入金であったが、その全額が売掛金の回収であることが判明した。
- 当座預金勘定の貸方残高全額を借入金勘定に振り替える。なお、取引銀行とは借越限度額を¥1,000,000とする当座借越契約を結んでいる。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸し倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
- 期末商品棚卸高は¥410,000である。
- 購入時に費用処理した収入印紙の未使用高が¥5,000あるため、貯蔵品へ振り替える。
- 有形固定資産について、次の要領で定額法により減価償却を行う。
建物：残存価額ゼロ、耐用年数30年
備品：残存価額ゼロ、耐用年数6年
なお、決算整理前残高試算表の備品¥1,600,000のうち¥400,000は昨年度にすでに耐用年数をむかえて減価償却を終了している。そこで、今年度は備品に関して残り¥1,200,000についてのみ減価償却を行う。
- 貸付金はX19年9月1日に貸付期間1年、年利率4.0%で貸し付けたもので、利息は貸付時に一括で受け取っている。なお、利息の計算は月割りによる。
- 法定福利費の未払分が¥70,000ある。
- 保険料は全額当期の8月1日に向こう1年分を支払ったものであるため、前払分を月割で計上する。
- 法人税等が¥432,000と計算されたので、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。

貸借対照表

X20年3月31日

現金	()	支払手形	280,000
普通預金	1,111,000	買掛金	1,010,000
受取手形	()	社会保険料預り金	()
() (△) ()		未払法人税等	()
売掛金	()	未払費用	()
() (△) ()		前受収益	()
商品	()	()	()
貯蔵品	()	資本金	3,000,000
前払費用	()	繰越利益剰余金	()
貸付金	600,000		
建物	()		
減価償却累計額	(△) ()		
備品	()		
減価償却累計額	(△) ()		
土地	440,000		
()			()

損益計算書

X19年4月1日からX20年3月31日まで

売上原価	()	売上高	19,060,000
給料	5,580,000	受取手数料	6,000
貸倒引当金繰入	()	受取利息	()
() ()		() ()	
保険料	()		
水道光熱費	()		
租税公課	()		
法定福利費	()		
法人税等	()		
当期純()	()		
()			()

第1問 (45点)

配点：各3点×15

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	カ	20,000	ウ	20,000
2	エ	7,000	カ	9,000
	ア	2,000		
3	オ	50,000	キ	50,000
4	ア	20,000	キ	30,000
	エ	14,000		
5	ク	1,500,000	カ	1,500,000
6	キ	1,000	オ	1,000
7	ク	935,000	ア	850,000
			イ	85,000
8	オ	80,000	キ	2,000,000
	エ	1,920,000		
9	イ	3,000,000	エ	3,000,000
10	イ	330,000	カ	300,000
			ウ	30,000
11	カ	1,950,000	ア	1,950,000
12	カ	1,794,000	イ	1,794,000
13	ア	420,000	イ	420,000
14	エ	3,000,000	ク	222,000
			カ	279,000
			ア	2,499,000
15	オ	570,000	ク	570,000

第2問 (20点)

(1)

配点：各2点×5
(勘定科目と金額が一致して2点)

保険料

X1/4/1	(前払保険料)	(24,000)	X2/3/31	(前払保険料)	(26,400)
X1/10/1	現金	52,800	〃	(損益)	(50,400)
		(76,800)			(76,800)
X2/4/1	(前払保険料)	(26,400)			

前払保険料

X1/4/1	(前期繰越)	(24,000)	X1/4/1	(保険料)	(24,000)
X2/3/31	(保険料)	(26,400)	X2/3/31	(次期繰越)	(26,400)
		(50,400)			(50,400)
X2/4/1	(前期繰越)	(26,400)	X2/4/1	(保険料)	(26,400)

(2)

配点：各2点×5

①	ケ	②	ク	③	ウ
④	コ	⑤	オ		

第3問 (35点)

配点：各2点×16
 (勘定科目と金額が一致して2点)
 配点：3点×1

貸借対照表

X20年3月31日

現金	(506,000)	支払手形	280,000
普通預金	1,111,000	買掛金	1,010,000
受取手形 (360,000)		社会保険料預り金	(70,000)
(貸倒引当金) (△ 10,800)	(349,200)	未払法人税等	(232,000)
売掛金 (840,000)		未払費用	(70,000)
(貸倒引当金) (△ 25,200)	(814,800)	前受収益	(10,000)
商品	(410,000)	(借入金)	(195,000)
貯蔵品	(5,000)	資本金	3,000,000
前払費用	(300,000)	繰越利益剰余金	(2,169,001)
貸付金	600,000		
建物 (3,000,000)			
減価償却累計額 (△1,100,000)	(1,900,000)		
備品 (1,600,000)			
減価償却累計額 (△ 999,999)	(600,001)		
土地	440,000		
	(7,036,001)		(7,036,001)

損益計算書

X19年4月1日からX20年3月31日まで

売上原価	(9,894,000)	売上高	19,060,000
給料	5,580,000	受取手数料	6,000
貸倒引当金繰入	(22,000)	受取利息	(14,000)
(減価償却費)	(300,000)	(雑益)	(3,000)
保険料	(600,000)		
水道光熱費	(180,000)		
租税公課	(25,000)		
法定福利費	(1,041,000)		
法人税等	(432,000)		
当期純(利益)	(1,009,000)		
	(19,083,000)		(19,083,000)

模擬試験 2024② 解説

第1問の仕訳15問、第3問の財務諸表の問題で80点中64点以上の得点を確保できるように練習しましょう。

	採点結果 / 配点	解答時間 / 目標
第1問	点 / 45点	分 / 15分
第2問	点 / 20点	分 / 18分
第3問	点 / 35点	分 / 27分
合計	点 / 100点	分 / 60分

第1問 仕訳問題

1. 前払金

①小切手を振り出したので、当座預金が減る。右に書く。	/ 当座預金 20,000
②手付金を支払ったので、前払金が増える。左に書く。 なお、注文時には仕入の仕訳をせずに、商品が届いたときに仕入の仕訳を行います。	前払金 20,000 / 当座預金 20,000

2. 収入印紙と郵便切手の購入

①収入印紙を購入したので、租税公課を使う。租税公課が増えたので、左に書く。	租税公課 7,000 /
②郵便切手を購入したので、通信費を使う。通信費が増えたので、左に書く。	租税公課 7,000 / 通信費 2,000
③現金を支払ったので、右に現金と書く。 $7,000 + 2,000 = 9,000$	租税公課 7,000 / 現金 9,000 通信費 2,000

3. 受取手数料

①当社は仲介業を営んでいないので、本問では本業以外で手数料を受け取ったと判断できる。取引の仲介や取引先の紹介など、本業以外で手数料を受け取った場合、受取手数料を使う。 手数料を受け取ったので、受取手数料が増える。右受取手数料と書く。	/ 受取手数料 50,000
②X 商店振出の小切手は他店振出小切手なので、受け取ったときに現金を使う。現金が増えるので、左に書く。	現金 50,000 / 受取手数料 50,000

4. 現金過不足

<p>①現金の帳簿残高が実際有高より 20,000 少なかったとき、帳簿残高を実際有高に合わせるため現金を増やす次のような仕訳をしていたはずである。</p> <p>現金 20,000 / 現金過不足 20,000</p> <p>決算日に現金過不足を 20,000→0 にするので、左に書く。</p>	現金過不足 20,000 /
<p>②記入漏れとなっていた勘定科目を書く。受取手数料(収益)が増えるので右に 30,000、旅費交通費(費用)が増えるので左に 14,000 と書く。</p>	現金過不足 20,000 / 受取手数料 30,000 旅費交通費 14,000
<p>③差額が右なので、雑益と書く。</p> <p>$20,000 + 14,000 - 30,000 = 4,000$</p>	現金過不足 20,000 / 受取手数料 30,000 旅費交通費 14,000 雑益 4,000

5. 本来の営業取引

<p>①当社は自動車販売業を営んでおり、販売目的の中古自動車を購入したので「仕入」を使う。仕入(費用)が増えるので左に書く。</p>	仕入 1,500,000 /
<p>②本来の営業取引で、代金は後日支払う場合には「買掛金」を使う。</p>	仕入 1,500,000 / 買掛金 1,500,000

6. 立替金の精算

<p>①現金を受け取ったので、現金が増える。左に書く。</p>	現金 1,000 /
<p>②従業員の昼食代を立て替えていたので、立替金を使う。立替金は資産なので、ホームポジションは左側の勘定科目。立替金が減るので、右に書く。</p>	現金 1,000 / 立替金 1,000

7. 売上と消費税

<p>①商品を売り上げたので、右に売上と書く。</p>	/ 売上 850,000
<p>②消費税を受け取るので、右に仮受消費税と書く。</p> <p>$850,000 \times 10\% = 85,000$</p>	/ 売上 850,000 仮受消費税 85,000
<p>③代金は掛けとしたので、左に売掛金と書く。</p> <p>$850,000 + 85,000 = 935,000$</p>	売掛金 935,000 / 売上 850,000 仮受消費税 85,000

8. 手形借入金

<p>①約束手形を振り出して借り入れたので、手形借入金を使う。手形借入金が増えるので、右に書く。</p>	/ 手形借入金 2,000,000
<p>②利息が差し引かれたので、支払利息が増える。左に支払利息と書く。</p>	支払利息 80,000 / 手形借入金 2,000,000
<p>③残額が普通預金に振り込まれたので、左に書く。</p> <p>$2,000,000 - 80,000 = 1,920,000$</p>	支払利息 80,000 / 手形借入金 2,000,000 普通預金 1,920,000

9. 会社設立

<p>①発行価額の全額を資本金とするので、資本金が増える。右に書く。 発行価額 @30,000×100 株=3,000,000</p>	/ 資本金 3,000,000
<p>②当座預金口座に振り込まれたので、当座預金が増える。左に書く。</p>	当座預金 3,000,000 / 資本金 3,000,000

10. 繰越利益剰余金の配当

<p>①株主総会で配当金の金額が決定されたが、実際の支払は後日なので未払配当金（負債）を使う。未払配当金が増えるので右に書く。</p>	/ 未払配当金 300,000
<p>②利益準備金（純資産）を積立てる。利益準備金が増えるので、右に書く。</p>	/ 未払配当金 300,000 利益準備金 30,000
<p>③繰越利益剰余金（純資産）が減るので、左に書く。 300,000+30,000=330,000</p>	繰越利益剰余金 330,000 / 未払配当金 300,000 利益準備金 30,000

11. 法人税等の中間納付

<p>①現金で納付したので現金（資産）が減る。右に書く。 1,200,000+300,000+450,000=1,950,000</p>	/ 現金 1,950,000
<p>②中間申告なので仮払法人税等（資産）を使う。仮払法人税等が増える。</p>	仮払法人税等 1,950,000 / 現金 1,950,000

12. 未収入金の回収

<p>①前月に土地を売却したときに下記の仕訳が行われていたはずである。固定資産売却益か固定資産売却損、どちらが計上されていたか分からないが、今回はこの未収入金が回収されたときの仕訳を問われている。 未収入金 1,794,000 / 土地 ??? 固定資産売却益 ???</p>	
<p>②未収入金を回収したので、未収入金が減る。未収入金は資産の勘定科目でホームポジションは左側。右に未収入金と書く。</p>	/ 未収入金 1,794,000
<p>③当座預金口座に振り込まれたので、当座預金が増える。左に書く。</p>	当座預金 1,794,000 / 未収入金 1,794,000

13. 損益振替

<p>①当期純利益の場合、繰越利益剰余金が増える。繰越利益剰余金は純資産勘定なので、ホームポジションは右側。右に繰越利益剰余金と書く。</p>	/ 繰越利益剰余金 420,000
<p>②左側に損益と書く。</p>	損益 420,000 / 繰越利益剰余金 420,000

14. 給料

①給料を計上するので、給料（費用）が増える。左に書く。	給料 3,000,000 /
②所得税の源泉徴収は「所得税預り金」（負債）、社会保険料は「社会保険料預り金」（負債）を使う。	給料 3,000,000 / 所得税預り金 222,000 社会保険料預り金 279,000
③普通預金口座から振り込んだので、差額は普通預金（資産）を使う。普通預金が減る。 3,000,000 - 222,000 - 279,000 = 2,499,000	給料 3,000,000 / 所得税預り金 222,000 社会保険料預り金 279,000 普通預金 2,499,000

15. 証ひょう（法人税等の納付書）

税金の納付書（領収証書）は、次の赤色で囲んだ部分を見ると、何の仕訳を書くのかわかる。

法人税の納付書

法人税の金額

対象の会計期間

領 収 証 書			
科目	法人税	本 税	570,000
	〇 〇 〇 税		
	△ △ 税		
住所	東京都港区××	□□税	
		××税	
氏名	株式会社パブロフ物産	合計額	¥ 570,000

納期等 X010401
の区分 X020331

中間申告 **確定申告**

出納印
X02.5.31
東西銀行

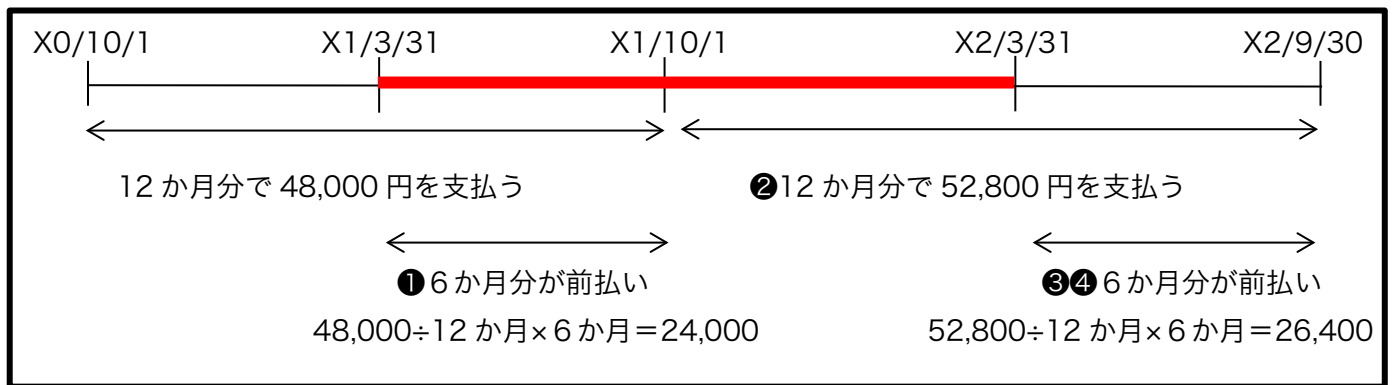
確定申告に関する納付（確定納付）

X01年4月～X02年3月の法人税等をX02年5月31日に納付したので、確定納付の仕訳（未払法人税等の支払う仕訳）を書くことができる

①与えられた納付書を見ると、前期の法人税等の確定納付を行っていることがわかる。つまり、未払法人税等を支払った仕訳を書く。未払法人税等が減るので、左に書く。	未払法人税等 570,000 /
②普通預金から振り込んだので、普通預金が減る。右に書く。	未払法人税等 570,000 / 普通預金 570,000

第2問 (1) 総勘定元帳の記入の問題 (前払費用)

ステップ1 下書きに線表を書き、情報を整理します。



ステップ2 下書きの線表を見ながら、仕訳を書きます。①の再振替仕訳がすぐに思いつかない場合は、前期末 (X1年3月31日) の仕訳

前払保険料 24,000 / 保険料 24,000

をまず書き、それを逆仕訳にするとわかりやすいです。

①再振替仕訳	X1/4/1	保 険 料	24,000	前払保険料	24,000
②1年分の支払い	X1/10/1	保 険 料	52,800	現 金	52,800
③決算整理仕訳	X2/3/31	前払保険料	26,400	保 険 料	26,400
④再振替仕訳	X2/4/1	保 険 料	26,400	前払保険料	26,400

ステップ3 仕訳を見ながら、総勘定元帳を記入します。たとえば①では、保険料が仕訳の左にあるので、総勘定元帳の「保険料」勘定の左に24,000と書きます (①)。摘要欄には、①の仕訳での相手勘定科目を書くので、前払保険料と書きます。同じように、①の前払保険料は仕訳の右にあるので、総勘定元帳の「前払保険料」勘定の右に24,000と書きます (①)。また、相手勘定科目を書くので、保険料と書きます。

①再振替仕訳	X1/4/1	① 保 険 料	24,000	① 前払保険料	24,000
②1年分の支払い	X1/10/1	② 保 険 料	52,800	現 金	52,800
③決算整理仕訳	X2/3/31	③ 前払保険料	26,400	③ 保 険 料	26,400
④再振替仕訳	X2/4/1	④ 保 険 料	26,400	④ 前払保険料	26,400

保険料

X1/4/1 ① (前払保険料) (24,000)	X2/3/31 ③ (前払保険料) (26,400)
X1/10/1 ② 現金 52,800	〃 () ()
()	()
X2/4/1 ④ (前払保険料) (26,400)	

前払保険料

X1/4/1 () ()	X1/4/1 ① (保険料) (24,000)
X2/3/31 ③ (保険料) (26,400)	X2/3/31 () ()
()	()
X2/4/1 () ()	X2/4/1 ④ (保険料) (26,400)

ステップ4 保険料は費用の勘定科目なので、X2/3/31 に損益に振り替えます。

損益の金額は借方と貸方の差額で計算 $24,000 + 52,800 - 26,400 = 50,400$

参考：保険料の損益への振り替えを仕訳にすると次のようになります。

損益 50,400 / 保険料 50,400

合計欄も書きます。

借方 $24,000 + 52,800 = 76,800$

貸方 $26,400 + 50,400 = 76,800$

保険料

X1/4/1 (前払保険料) (24,000)	X2/3/31 (前払保険料) (26,400)
X1/10/1 現金 52,800	〃 (損益) (50,400)
(76,800)	(76,800)
X2/4/1 (前払保険料) (26,400)	

ステップ5 前払保険料は資産の勘定科目なので、前期繰越と次期繰越を記入します。

合計欄も書きます。

借方 $24,000 + 26,400 = 50,400$

貸方 $24,000 + 26,400 = 50,400$

前払保険料

X1/4/1 (前期繰越) (24,000)	X1/4/1 (保険料) (24,000)
X2/3/31 (保険料) (26,400)	X2/3/31 (次期繰越) (26,400)
(50,400)	(50,400)
X2/4/1 (前期繰越) (26,400)	X2/4/1 (保険料) (26,400)

(2) 理論の穴埋め問題

理論の穴埋め問題です。試験でたまに出題されます。本問は記号で答えないと不正解となりますので、注意が必要です。間違えた問題はテキストに戻って、内容を確認しておきましょう。

1. 固定資産の修繕（資本的支出）の問題です。価値が増加する場合は資本的支出ですので、**建物**勘定を増加させます。
2. 貸倒引当金は受取手形や売掛金に対する**評価**勘定です。貸借対照表で受取手形や売掛金から貸倒引当金をマイナスして表示します。このような勘定科目を評価勘定といい、資産のマイナスに分類されます。その他の評価勘定として、減価償却累計額があります。
3. 3 伝票制の問題です。現金の入出金を伴わない取引は、**振替**伝票に記入します。
4. 帳簿の種類に関する問題です。売掛金元帳は**補助簿**です。主帳簿と補助簿の違いは、覚えておきましょう。
5. 商品有高帳の問題です。商品有高帳の払出欄には、**原価**が記入されます。

第3問 財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の問題

ステップ1 下書きに決算整理事項の仕訳を書きます。

1. 現金実査

下書きを書き、状況を整理します。帳簿残高は資料（1）の現金に書いてあります。

$\Delta 12,000$
帳簿残高 518,000 —————→ 実際有高 506,000

現金を 518,000→506,000 にするので、現金を 12,000 減らします。右に現金と書きます。水道光熱費の記入漏れを計上するので、左に水道光熱費と書きます。差額が右側なので、雑益を使います。

2. 仮受金の原因判明

仮受金を売掛金に振り替えます。仮受金は資料（1）の金額を使います。仮受金が減るので左に書きます。売掛金が減るので、右に書きます。

3. 当座借越

当座預金の残高が貸方なので、マイナスになっています。問題文の指示に従い「借入金」に振り替えます。借入金が増えるので、右に書きます。当座預金の貸方残高がゼロになるので、左に書きます。

4. 貸倒引当金

下書きを書き、貸倒引当金繰入の金額を求めます。

要引当額	
受取手形 360,000×3% = 10,800	} 36,000
売掛金 (952,000 - 112,000) × 3% = 25,200	
繰入 + 22,000	
貸倒引当金 14,000 —————→	36,000

5. 売上原価

「しーくりくりしー」の決算整理仕訳を書きます。期首有高は、資料（1）繰越商品 384,000 を使います。

<仕訳>

1.	水道光熱費	15,000	現	金	12,000
			雑	益	3,000
2.	仮受金	112,000	売	掛	金 112,000
3.	当座預金	195,000	借	入	金 195,000
4.	貸倒引当金繰入	22,000	貸	倒	引
			当	金	22,000
5.	仕	384,000	繰	越	商
	繰	410,000	越	商	品 384,000
	越		仕	入	410,000
	商				
	品				

6. 貯蔵品への振り替え

購入時に費用処理した収入印紙が未使用だったので、租税公課を減らし、貯蔵品を増やします。

7. 建物、備品の減価償却

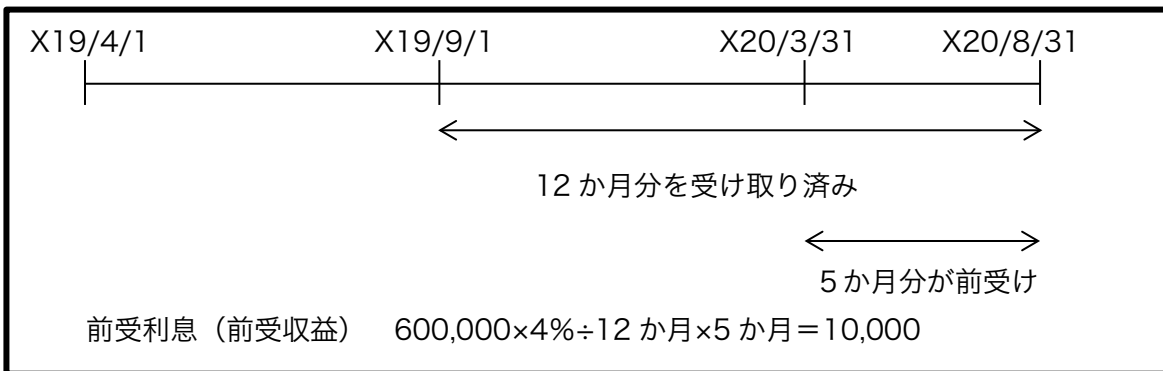
建物、備品の減価償却費を計算します。備品 400,000 については、耐用年数が到来済み（取得原価 400,000、累計額 399,999）で、当期は減価償却の対象外であるため、 $1,600,000 - 400,000 = 1,200,000$ について、減価償却を行う。

建物の減価償却費 $3,000,000 \div 30 \text{年} = 100,000$

備品の減価償却費 $1,200,000 \div 6 \text{年} = 200,000$

8. 受取利息の前受け

下書きを書き、状況を整理します。9月に1年分の利息を受け取っているのに、翌期分5か月分が前受けの状況です。受取利息を前受利息（前受収益）に振り替える仕訳を書きます。財務諸表の問題では、前受利息ではなく「前受収益」を使うことが多いです。解答欄を確認して勘定科目を選ぶことが大切です。



参考：経過勘定の勘定科目

経過勘定は、個々の内容がわかる詳細な勘定科目を使う場合と貸借対照表の勘定科目を使う場合があります。問題を解く場合は、答案用紙の勘定科目名に合わせて仕訳を書きましょう。

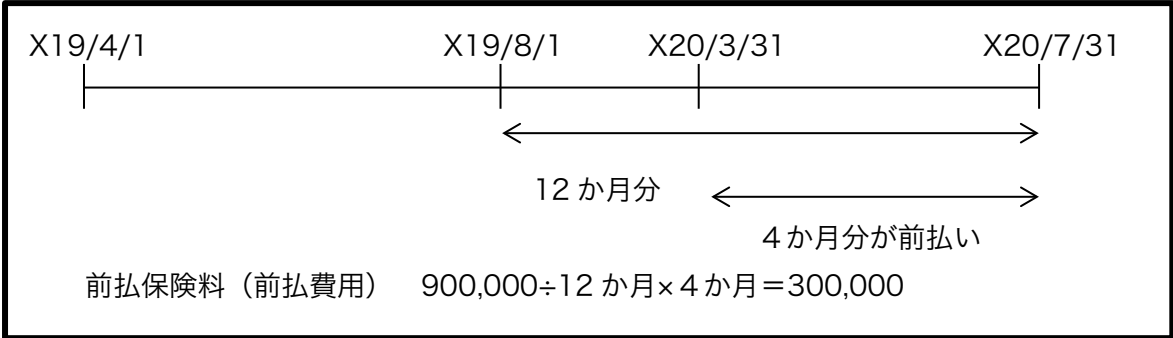
貸借対照表の勘定科目	内容がわかる詳細な勘定科目
未払費用 200	未払利息 100、未払給料 100
前払費用 200	前払利息 100、前払家賃 100
未収収益 200	未収利息 100、未収手数料 100
前受収益 200	前受利息 100、前受手数料 100

9. 法定福利費の未払い

法定福利費の未払分があります。計上が不足している法定福利費（費用）を計上します。左に法定福利費を書きます。右に未払費用（負債）を書きます。

10. 保険料の前払い

下書きを書き、状況を整理します。資料（1）の保険料900,000は12か月分を前払いしたもので、翌期分4か月が前払いの状態。計上しすぎている保険料（費用）を減らし、前払費用（資産）を増やす仕訳を書きます。



11. 法人税の確定

法人税等が増えるので、左に書きます。仮払法人税等を減らすので、右に書きます。差額が右側なので、未払法人税等を使います。

未払法人税等 $432,000 - 200,000 = 232,000$

<仕訳>

6.	貯蔵品	5,000	租税公課	5,000
7.	減価償却費	300,000	建物減価償却累計額	100,000
			備品減価償却累計額	200,000
8.	受取利息	10,000	前受収益	10,000
9.	法定福利費	70,000	未払費用	70,000
10.	前払費用	300,000	保険料	300,000
11.	法人税等	432,000	仮払法人税等	200,000
			未払法人税等	232,000

ステップ2 資料(1) 決算整理前残高試算表の金額を貸借対照表と損益計算書の横に書き写します。すでに金額が記入されている勘定科目は飛ばします。

貸倒引当金はステップ3で記入します。

繰越商品は、貸借対照表では商品として表示されるので、384,000は商品の横に書き写します。

仕入勘定で計算された売上原価の金額は、損益計算書では売上原価として表示されるので、9,920,000は売上原価の横に書き写します。

貸借対照表

X20年3月31日

518,000	現金	()	支払手形	280,000
	普通預金	1,111,000	買掛金	1,010,000
360,000	受取手形	()	社会保険料預り金	() 70,000
	() (△) ()		未払法人税等	()
952,000	売掛金	()	未払費用	()
	() (△) ()		前受収益	()
384,000	商品	()	() ()	
	貯蔵品	()	資本金	3,000,000
	前払費用	()	繰越利益剰余金	() 1,160,001
	貸付金	600,000		
3,000,000	建物	()		
1,000,000	減価償却累計額	(△) ()		
1,600,000	備品	()		
799,999	減価償却累計額	(△) ()		
	土地	440,000		
	()			()

損益計算書

X19年4月1日からX20年3月31日まで

9,920,000	売上原価	()	売上高	19,060,000
	給料	5,580,000	受取手数料	6,000
	貸倒引当金繰入	()	受取利息	() 24,000
	() () ()		() ()	
900,000	保険料	()		
165,000	水道光熱費	()		
30,000	租税公課	()		
971,000	法定福利費	()		
	法人税等	()		
	当期純()	()		
	()			()

ステップ3 下書きの決算整理仕訳を貸借対照表と損益計算書の横に書き写します。貸倒引当金は、受取手形と売掛金に分かれていますので、下書きの要引当額をそれぞれ記入します。

繰越商品として仕訳した金額は、商品の横に書き写します。

仕入として仕訳した金額は、売上原価の横に書き写します。

貸借対照表

X20年3月31日

518,000△12,000	現金 ()	支払手形	280,000
	普通預金 1,111,000	買掛金	1,010,000
360,000	受取手形 ()	社会保険料預り金 ()	70,000
+10,800	(貸倒引当金) (△) ()	未払法人税等 ()	+232,000
952,000△112,000	売掛金 ()	未払費用 ()	+70,000
+25,200	(貸倒引当金) (△) ()	前受収益 ()	+10,000
384,000△384,000	商品 ()	(借入金) ()	+195,000
+410,000			
+5,000	貯蔵品 ()	資本金	3,000,000
+300,000	前払費用 ()	繰越利益剰余金 ()	1,160,001
	貸付金 600,000		
3,000,000	建物 ()		
1,000,000	減価償却累計額 (△) ()		
+100,000			
1,600,000	備品 ()		
799,999	減価償却累計額 (△) ()		
+200,000			
	土地 440,000		
	()		()

損益計算書

X19年4月1日からX20年3月31日まで

9,920,000	売上原価 ()	売上高	19,060,000
+384,000			
△410,000			
	給料 5,580,000	受取手数料	6,000
+22,000	貸倒引当金繰入 ()	受取利息 ()	24,000△10,000
+300,000	(減価償却費) ()	(雑益) ()	+3,000
900,000	保険料 ()		
△300,000			
165,000+15,000	水道光熱費 ()		
30,000△5,000	租税公課 ()		
971,000+70,000	法定福利費 ()		
+432,000	法人税等 ()		
	当期純(利益) ()		
	()		()

ステップ4 まずは損益計算書を完成します。メモした金額を電卓で計算し（ ）に記入します。

収益と費用の（ ）を記入し終わったら当期純利益を計算します。

①収益 $19,060,000 + 6,000 + 14,000 + 3,000 = 19,083,000$

②費用 $9,894,000 + 5,580,000 + 22,000 + 300,000 + 600,000 + 180,000 + 25,000 + 1,041,000 + 432,000 = 18,074,000$

③当期純利益 $19,083,000 - 18,074,000 = 1,009,000$

損益計算書

X19年4月1日からX20年3月31日まで

9,920,000	売上原価	(9,894,000)	売上高	19,060,000
+384,000				
△410,000				
	給料	5,580,000	受取手数料	6,000
+22,000	貸倒引当金繰入	(22,000)	受取利息	(14,000) 24,000△10,000
+300,000	(減価償却費)	(300,000)	(雑益)	(3,000) +3,000
900,000	保険料	(600,000)		
△300,000				
165,000+15,000	水道光熱費	(180,000)		
30,000△5,000	租税公課	(25,000)		
971,000+70,000	法定福利費	(1,041,000)		
+432,000	法人税等	(432,000)		
	当期純(利益)	(1,009,000)		
		<u>(19,083,000)</u>		<u>(19,083,000)</u>

ステップ5

貸借対照表の繰越利益剰余金に当期純利益を加えます。次に貸借対照表を完成します。

繰越利益剰余金 1,160,001 + 当期純利益 1,009,000 = 2,169,001

貸借対照表

X20年3月31日

518,000△12,000	現金	(506,000)	支払手形	280,000	
	普通預金	1,111,000	買掛金	1,010,000	
360,000	受取手形	(360,000)	社会保険料預り金	(70,000)	70,000
+10,800	(貸倒引当金)	(△ 10,800)	未払法人税等	(232,000)	+232,000
952,000△112,000	売掛金	(840,000)	未払費用	(70,000)	+70,000
+25,200	(貸倒引当金)	(△ 25,200)	前受収益	(10,000)	+10,000
384,000△384,000	商品	(410,000)	(借入金)	(195,000)	+195,000
+410,000					
+5,000	貯蔵品	(5,000)	資本金	3,000,000	
+300,000	前払費用	(300,000)	繰越利益剰余金	(2,169,001)	1,160,001
					+1,009,000
	貸付金	600,000			
3,000,000	建物	(3,000,000)			
1,000,000	減価償却累計額	(△1,100,000)			
+100,000					
1,600,000	備品	(1,600,000)			
799,999	減価償却累計額	(△ 999,999)			
+200,000					
	土地	440,000			
		(7,036,001)		(7,036,001)	